

## 結核治療をお引き受けします

西福岡病院には結核病床が 48 床(現在の実稼働病床 30 床)あり、入院での結核治療が可能です。また外来でも結核診療を行なっています。結核が疑われ、当院での加療をご希望の際は、まず喀痰の抗酸菌塗抹・培養検査と遺伝子検査(核酸増幅法 PCR 法)を行っていただければ幸いです。

以下に喀痰検査の結果ごとに今後の検査・治療方針(案)を提示していますので、ご留意の上、ご相談ください。

### 1) 抗酸菌塗抹陽性かつ PCR 陽性

結核と診断され、治療が必要です。感染症法に基づく入院勧告、および公費負担の対象となる方です。感染性も高いので、入院の上治療を開始します。

但し、治療にもかかわらず症状が安定していない精神疾患をお持ちの方、服薬を拒否される方、高度の認知症で治療の意義を理解できない方、などは当院で対応できない場合もあります。また専門的に高度な治療が求められる重篤な合併症をお持ちの方も当院では対応できない場合もあることをご了解ください。合併症については当院のソーシャルワーカーからお尋ねします。

### 2) 抗酸菌塗抹陰性かつ PCR 陽性

結核と診断され、結核の治療が必要です。しかし、塗抹陽性に比べて感染性が低いと考えられるので、外来治療となる場合があります。入院治療にするか、外来治療にするかは画像所見などを参考にして判断します。

### 3) 抗酸菌塗抹陽性かつ PCR 陰性

非結核性抗酸菌症の可能性が高いと考えられます。ただちに入院する必要はありませんが、治療が必要かどうか今後の精査が必要となります。

### 4) 抗酸菌塗抹陽性だが、PCR 検査の結果がまだでていない場合

現時点では結核、非結核性抗酸菌症のいずれとも診断できません。PCR 陽性であれば感染性の高い結核と診断されます。通常 PCR 検査が陽性と判明した後で、結核病棟に入院していただくことになります。但し、臨床的に結核が強く疑われ、結核病棟内に空床個室がある場合は、PCR の結果を待たずに入院をお引き受けすることもあります。しかし、後で PCR 陰性と判明することもありますので、そのような場合は結核ではなく、非結核性抗酸菌症として一般病棟に転棟していただきますが、治療せずに経過観察のために元の病院にお帰りいただくこともあります。あらかじめご本人やご家族の方に、転棟や元の病院に戻っていただくこともあることを説明しご理解をいただく必要があります。

### 5) 抗酸菌塗抹陰性かつ PCR 陰性

現時点で結核の可能性は低いと考えられますが、最終的に培養の結果をまって診断することになります。画像から結核が疑われる場合はご相談ください。

## その他の留意していただきたい点

### 1) 粟粒結核や結核性胸膜炎が疑われる場合

喀痰塗抹陽性とならない可能性があり、感染症法の入院勧告にあてはまりませんが、入院治療が必要になりますので、疑われる場合はご相談ください。

### 2) 施設入所中の方

嘱託医の先生におかれましては、上記基準にしたがって喀痰検査を行なっていただいた上で当院にご相談ください。

### 3) 結核の発生届け

結核を最初に診断した医師が結核発生届けを作成・提出することになっています。当院に転院になる前にご本人の現住所を管轄する保健所に届け出をお願いします。

### 4) 治療後の転院

治療により、感染性がなくなった時点で、自立生活が困難である場合は、紹介していただいた病院に転院をお願いすることがあります。ご協力をお願いします。

## 当院へのご連絡

### 医療相談室・地域医療連携室

電話 代表：0570-091-331 FAX：092-881-1333

直通：092-881-1623 FAX：050-3730-4538

受付時間：平日 8 時 30 分～17 時 00 分、土曜日 8 時 30 分～12 時 00 分

2023 年 1 月  
医療法人西福岡病院 院長 渡辺憲太郎  
呼吸器内科